

再発見 The Art of Refereeing (4)

第4章 4.よい位置をとる再読

レフリーはあらゆる動きをみるために何時でもよい位置にいることを目指しています。これは練習と研究によってのみ身に付けることが出来る Art 芸術とも言うべきものです。

これについては細かいルールはありません。頭と身体の適合をはかり最善のものを土台として自分の技術を上達させなければなりません。

明らかに背の高い人にうまくいくことが、背の低い人にもそのままうまくいくとは限りません。よい位置をとることについての精度の高さはレフリー自身が体得せねばなりません。

個々の方法を作り出す基礎として使うだかならば一般的意見も役に立つでしょう。

初心者にとってよい位置とりのためにプレーに遅れないようによく走るということは課題です。そのためにエネルギーを余り使わないでよい結果を得るには経験を積むこと以外にありません。最上級と言われるレフリーは初心者よりフィールドを走り回る距離も少ないし、全力で走る回数も少ないものです。それは彼らが年長であるとか、怠け者であるという理由ではありません。何時走り出したらよいか、どのコースを走ればよいかを知っているからです。望ましい結果を得るための近道ではありません。

初歩の第一の目標はいつでもボールの動きについて走るということです。最も経験を積んだレフリーでもフィールドをノロノロ走り回るような様子を示すことは疾病と同じように避けなければならないことです。レフリーは機敏でなければならないと同時に如何にも機敏に見えなければならないのです。

移動と予測

良い位置をとることの基本は十分に早くスタートすることに尽きます。そのために常に爪先で立っていなければなりません。このことは容易に聞こえますが、実際には非常に精神の集中が要することです。スクラムとかラインアウト後や他のプレーで一瞬ゲームが止まった時、踵を付けてやれやれといった具合に立ってプレーの進行を見失ってしまうことがあります。しかし、突然今立っているところから遠くにプレーが移動し自分がプレーの進行の関係外になっていることに気付くことがあります。この事実気付いた時のショックはつらく再びゲームを手中に収めるのに必要な労力は長い時間の集中を要するのは驚くほど大きいものです。そのような状況の下ではプレーが進行するであろう方向を見分け出来るだけ早く動くよう心掛け集中しなさい。そうしたらゲームの進行を予測する優れたセンスを養うことが出来るでしょう。十分に早くスタートすることによってよい位置をとるという主要な課題の一つを解決出来たことになるでしょう。

しかし、立ち止まっていようと誘惑を軽く見てはいけません。それは非常に現実味のあることなのです。先に見越し過ぎることに注意しなければなりません。不当な仮説の元に行動することは危険です。

- ・フルバックがタッチに向かってキック
- ・そのボールがレフリーが今立っている位置から 30 ヤード程離れたフィールドプレー内いる相手プレーヤーの方へ飛んでいることが明らかである場合、
- ・その相手側プレーヤーがしっかりとキャッチ
- ・レフリーの今立っている近くへ蹴り返すだろうと仮定し、
- ・そのままの位置に止まっているべきだろうか？！

彼はノックオンするかも知れないのです。レフリーが行くべき位置を自覚する前に、起こったことを見極めることの出来る位置から離れた所を足を引きずって追いかけているうちに相手の集団がゴールラインを越えて、ドリブルしているということになってしまう。この種の失敗はキックがあった後直ちにその方へ移動すれば簡単に避けられることが出来ます。たとえボール処理に失敗し相手側にボールを取られるようなことがあっても走るペースを上げることによってプレーにピッタリのレフリーが行くべき位置にいることになるでしょう。

注意：本文は古い本の再読のため、ルール及び解釈は当時のものをそのまま使用しています